

## 第31回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成26年11月20日（木） 10:00-11:30
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
葛西委員長、中須賀委員、山川委員、山崎委員
  - (2) 政府側  
松本内閣府大臣政務官、阪本内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨

冒頭、松本政務官から以下のような挨拶があった。

松本政務官：

- ・宇宙政策については、担当政務官就任以前より高い関心を持って取り組んでおり、宇宙基本法の制定に当たっても汗をかかせていただいたところ。
- ・その宇宙基本法に基づく宇宙基本計画について、委員の皆様の精力的な審議を経てとりまとめられ、パブリックコメントコメント中と認識。
- ・本日審議される「工程表」は、環境変化等踏まえ、毎年改定されるものと承知しているが、政策の一貫性と柔軟な政策展開を担保しながら、宇宙基本計画を具体化していく極めて重要なもの。
- ・本日も精力的な審議をお願いしたい。

### (1) 各部会の検討状況について

新宇宙基本計画の工程表の策定に向けた基本政策部会の検討状況について、資料1に基づいて中須賀部会長から報告を行った。次に、宇宙輸送システム部会の検討状況について、資料2に基づいて山川部会長から報告を行った。最後に、宇宙科学・探査部会の検討状況について、資料3に基づいて山川委員から報告を行った。

### (2) 「新宇宙基本計画の工程表」(素案)について

審議の結果、「新宇宙基本計画に盛り込むべき内容(素案)」については、一部修正の上、委員会として了承された。なお、修正については、委員長一任となった。

主な意見は以下の通り。

- 本文の内容が的確に反映されてはいるが、「調整中」で年次が明確化されていない箇所がある。産業界、利用者、また日本の宇宙政策にとって、いつ何が打ち上がるか事前にわかることは極めて重要であり、今後年次を明確化していくよう強くお願いしたい。
- Xバンド防衛衛星通信3号機については、防衛省の文書で着手年次が明記されていたと承知。宇宙基本計画においても整備年次を必ず明記すべきである。
- 技術試験衛星は極めて重要性が高く、打ち上げは待ったなしの状況。遅れると国際競争力に大きく影響するので、打ち上げ時期をできるだけ前倒しした上で明確化するようお願いしたい。

- 先進光学衛星などのリモートセンシング衛星は、後継機も含めて年次を確定し、データの継続性を担保することが利用者にとっても重要。
- 準天頂衛星は大きな社会的・産業的波及効果が見込まれ、日米宇宙協力の点からも重要なプロジェクト。7 機体制の確立は極めて重要であり、東京オリンピック・パラリンピックまでとは言わないが、平成34年、35年度あたりには確立すべき。また、測位衛星は社会インフラであるため、GPSに過度に依存しないことが大事であり、その点でも自立測位が可能になる7機体制の確立を急ぐべきである。

以上